



こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより
No. 4
平成 29 年 7 月 27 日発行

その掲示は必要ですか？ ～学校経営・人事管理訪問から～

学校職員課 学校人事係

いよいよ夏休みに入りました。4月以来、多忙な日々を過ごされたことと思います。夏休みにもプール当番や部活指導、各種研修等が予定されていることと思いますが、それでも普段より時間のゆとりをつくるチャンスです。心身のリフレッシュを図っていただき、2学期からのエネルギーを蓄えていただきたいと思います。

これまでに39校の学校経営人事管理訪問（学校管理訪問）を実施しました。どの学校でも、子どものために精一杯努力される先生方の姿を拝見し、ありがたい気持ちで一杯になりました。心から感謝申し上げます。

さて、今回お伝えするのは、業務のスリム化への一提案です。

「業務のスリム化」とは、これまで行ってきたことを縮小したり、廃止したりすることです。言うまでもなく、長時間勤務の解消につながります。



何気なく続けていることはありませんか？



学級担任の先生であれば、…例えば学級掲示です。

習字や絵画など、子どもの作品掲示は必要ですか？ 背面にある「学級の歩み」は本当に必要ですか？

「必ずなくてはならないものではないが、あった方がよい」と考えられる方が多いのではないのでしょうか。さらに、「自分だけ他と大きく違う掲示にする度胸がない」というのが本音ではないのでしょうか。

掲示は、「場に応じて・誰かに・何かを」伝えるための手段です。教室内であれば、その学級の子どもたちに何かを伝えること、廊下であれば、そこを通る誰かに、何かを伝えることが目的になるでしょう。そこで、今ある掲示物はその目的に合致しているか、合致しているとしても伝えるための文字の大きさや内容がどうあればよいかを考えていくことが必要だと考えます。

また、「そこに掲示板があるから何かを貼らなければならない」という考えに縛られる必要もありません。掲示物が無くとも、教室には子どもがいます。先生もいます。互いを支え合う温かい仲間関係、先生との信頼関係があればそれだけで「居心地のよい教室空間」となり得るでしょう。（整理整頓、換気、照度の確保等の環境整備はもちろんです。）

思い切って、大胆に、掲示をスリム化する動きをお願いします。ただ、このことは、学級単位での実現は少々難しいかもしれません。学級担任として、隣の教室が気になるのは仕方ないことですから。そこで、管理職はもちろん、特活主任や学年主任の先生方から働きかけていただくことを是非ともお願いします。

生み出した時間を自分自身のために有意義に使い、明日も元気に笑顔で子どもの前に立てる先生でいていただきたいと思います。

きれい！と光る すてきな実践を紹介します！

課題解決に つながる交流

国語科編



小学校第6学年において、高学年の〔B書くこと〕の言語活動例「自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること」に焦点をあてた授業を参観しました。

「5年生のために修学旅行のおすすめ場所を紹介するパンフレットを作成する」言語活動において、「一人一人の原稿を、グループのみんなで意見を出し合って推敲する」という交流が行われました。それぞれの書いた原稿について「効果的に伝わる表現」に焦点が当たり、どんな言葉ならより伝わるか、どんな表現技法を使えばよいかといった助言を聞き合い、原稿を推敲することができました。定着状況を見届ける際には、児童の原稿の変容が自己評価、相互評価及び教師評価で示され、「効果的に伝える表現の工夫の大切さ」を児童が実感する姿を具現していただきました。

願いをもって 運動に取り組む

保健体育編



中学校第1学年において、体づくり運動「自分の身体の状態に気付き、自己の願いに合わせて運動計画を立てる」授業を参観しました。

準備運動においては、ペアでストレッチ、グループで風船を落とさずにゴールまで運ぶ運動を行いました。生徒たちは、心と身体をほぐし、自分と仲間の身体の調子に関心をもって主の運動につながる活動を行っていました。

課題化においては、「巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力」を高めることができるように、生徒が主体的に分類し、自分たちの願いに合わせた運動計画が立てられるようにしていました。こうした課題化によって、仲間との意見交流が活発になり、汗を流しながら自分に合った運動計画を実施していました。願いをもって運動することの素晴らしさを生徒の姿で見せていただいた実践でした。

障がい特性に 応じた指導

特別支援教育編



小学校特別支援学級（自閉症・情緒）の国語の授業を参観しました。通常の学級で行う国語科の単元指導計画を基に、それぞれの実態を考慮した「個別の単元指導計画」を作成して実践されていました。

文章から内容を読み取る力を育てるねらいの第3学年児童には、首を垂れたたんぽぽが、再び頭をもたげる場面を、児童自身が動作化することで確認されました。言語理解の力を育てたい第5学年児童には、大きな画用紙で自分の腕や胴を実際に包む活動から、筆者が「生き物の体は円柱形の集まりだ」と述べた意味を目に見える形で確認されました。

それぞれの障がい特性を的確にとらえた具体的、実際的な支援により確かな国語の力を育てる実践でした。